

議会だより

うれしの



12月定例会

平成23年第4回の定例会が12月2日から16日まで15日間の日程で開催されました。

提出された議案は条例の一部改正1件、指定管理者の指定4件、一般会計補正予算、国民健康保険特別会計補正予算、ほか特別会計補正予算6件、水道事業会計補正予算、教育委員会委員の任命、固定資産評価委員の選任について4件など19議案と議員発議1件が上程され慎重な審議の結果、可決、認定されました。

(賛否表はP4)

一般質問は11名の議員が登壇し市政を質しました。

2億4000万円を 貯金へ積み立て

9月の定例会で平成22年度の決算をおこないましたが、12月の定例会で歳入歳出の差し引き、4億6075万円が平成23年度への繰越金として計上されました。

そのうちの2億4000万円を、何にでも使える貯金(財政調整基金)に積み立てました。

また、当初予算で計上していた貯金の取り崩し

5億4730万円が、職員給与の減額や事業の精査などによって、2億3607万円で済むことになり、11月末現在の貯金残高は14億6686万円となっております。

今後も国や県の補助事業を活用したり、事業の内容を精査して健全運営に努めなければなりません。

嬉野産青汁へまず一歩

お茶の端境期支援対策事業として、80万円が予算化されました。

この事業は、お茶生産期以外の製茶工場の有効利用や、お茶の新しい販路拡大と嬉野地区における水田の裏作に、大麦若葉を作付し水田の有効利用をはかるための事業です。

どこに・いつまで

この事業は、3年間の継続で、大麦若葉研究会に23年度80万円、24年度120万円、25年度160万円の合計360万円が補助されます。

どんな内容

製茶工場の稼働は4月から9月までの半年間で、残りの期間は茶製造には

利用されていません。

そこで冬場の茶工場の有効利用として、福岡県の八女市などが取り組んでいる大麦若葉の加工技術を参考に、市内の茶工場で研究することになりました。

また、大麦の生産については、今回は今寺地区と吉田地区で試験的に2・6畝が作付されます。

将来はどくなるの

大麦若葉の加工品は、健康商品などの原料として製薬会社などで利用されており、昨今の健康ブームのなかでは、かなりの需要がみこまれていきます。

今後、大麦若葉の生産と加工を事業として軌道に乗せるためには、安定した生産技術と加工技術の確立、確実な販売先の確保が重要になります。

今回の事業により、嬉野の新たな特産品の誕生と、農家の経営安定につながることを期待します。



先進地での乗用摘採機による麦の刈り取り状況

子どもの医療費助成が変わります。



安心して子育てができるように

乳幼児ならびに就学前児童および小学生の医療費助成に関する条例が一部改正されました。

佐賀県内の就学前児童への医療費助成は各市町で異なっていました。平成24年4月1日から県が統一して、0歳から小学校に入学する前までの子どもを、ひとつの制度にすることとなりました。

なにが変わった

今までは保護者の方に診療費を窓口で払っていただいた後に、市の窓口で払い戻しの手続きをおこなわなければなりませんでしたが、4月1日からは医療機関の窓口で負担金を支払えば済むようになります。

また、保護者の自己負担は、医療機関ごとに通院1回につき5000円で2回目までは負担していただきますが、3回目以降は無料となります。入院は上限10000円を負担してもらいます。

小学生はどうなる

今までと変わらず医療機関で診療費を払っていただき、市の窓口で払い戻しの手続きをしていただきます。

システムの問題もありますが、小学生の医療費も、0歳から小学校に入学する前の子も達と同様に、払い戻し手続きをしなくてすむようにしなければなりません。

ヤフードームで嬉野の日

今回、嬉野パワーアツプ事業として350万円が予算化されました。

どんな内容なの

九州で唯一のプロ野球球団である「福岡ソフトバンクホークス」が、昨年は日本一となり、大変な活躍でシーズンを終わりました。

そのようななか、今年3月4日(日)福岡ヤフードームで開催される、対ロッテとのオープン戦において、市がそのゲームのスポンサーとなります。

その内容は、始球式や花束贈呈、ホークスビジョンでの広告や入場ゲート外でチラシ、物品などの配布を実施し、嬉野温泉のPR活動をおこない嬉野の魅力や情報を発信します。

また、ヤフードームの内野席が500席確保されており、市内の野球少年たちを200名程度招待し、残り300席は福

岡うれしの会の皆さんや嬉野市民を対象に公募されることが計画されています。

どんな効果が

福岡市内で、このような形で嬉野温泉のPRをおこなうことは、誘客増に、おきな期待がもてる事業と考えますが、初めての試みでもあり、観光関係者の連携を密にすることが成功のカギになると思われます。

また、少年野球の子どもたちにとっては、プロ野球のゲームを生で観戦できることは、夢が広がることへの大きなきっかけになると思われます。

今回ソフトバンクホークスの「本多選手」が、嬉野市の観光大使を引き受けていただいております。今後ソフトバンクホークスとともに、嬉野が大きく発展する事業になればと期待します。



オーロラビジョンでのイメージ写真

市民のみなさんから 議会へ



陳情された赤仁田地区

赤仁田地区へ水道給水を

陳情者

赤仁田地区

代表 山口 昌彦

市営駐車場の料金値下げを

陳情者

嬉野温泉観光協会

会長 山口 保

三坂地区に新規市道の整備を

陳情者

三坂区長

峰 敏和

看護高等専修学校に財政的支援を

陳情者

鹿島藤津地区医師会立看護高等専修学校

校長 中村 秀三



整備されているトンネルの工事用道路

意見書 1 件提出

国政へとどけ地方の声

放射線による被害対策の早期実施を

提出者 小田 寛之 議員
 賛成者 田中 政司 議員
 梶原 睦也 議員
 山口 政人 議員
 山下 芳郎 議員
 辻 浩一 議員

東北大震災により発生した福島第一原子力発電所の事故は、飛散した放射性物質による影響が深刻な問題として、福島県を中心に広域的範囲に拡がっており、人体への影響はもちろんのこと、農畜水産物への影響も心配されるなか、風評被害は既に現実のものとなっている。その対策は長期化する実態が多方面に現れている。

と。特に子どもへの影響については、根拠ある基準値を明確にすること。

① 人体や農畜水産物への影響について、科学に基づいた基準値を国としてしっかり定め、広く国民に周知すること。

② 天気や風向きによって数値が目まぐるしく変化する放射線量について、場所や時間を変えてきめ細かく測定し、そうして得られた測定値を判断基準として避難勧奨を実施すること。

③ 避難勧奨等を実施する場合、福島第一原子力発電所からの距離や、行政境などで一律に線引きせず、放射線の影響の大小で実施すること。

④ 農畜水産物について福島県産としていくりにせず、細かく産地表示する等して福島県内でも放射線の影響の少ない地域の産業を風評被害から守ること。

⑤ 補償や賠償にあたっては、その対象人数や世帯を勘案して絞ることをせず、実際に被害にあわれた被災地域の方々を対象とすること。

⑥ 被災者の不安の声に真摯に耳を傾け、粘り強く最後まで諦めずに除染等の対策を実施すること。



福島第一原子力発電所

提出先
 衆議院議長 横路高弘様
 参議員議長 平田健二様
 内閣総理大臣

他
 野田佳彦様
 関係各大臣

11月臨時議会

11月29日に臨時議会が招集され、人事院勧告にもなう、嬉野市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例が提出されました。慎重審議をおこない、賛成多数で可決されました。

一般職員の給与を減額

人事院の勧告に基づき、公務員給与と民間給与の格差を是正するために、今回一般職員の給与が改

正されることになりました。率としては平均で0.23割の減額となり、対象者人数はおおむね43歳以上の一般職員で約90名、総額で182万8000円の減額となります。長引く景気低迷の影響で民間においても厳しい状況が続いており、早期の景気回復が望まれます。議会では、「国家公務員の給与は削減されずに、なぜ地方公務員給与だけ下げなければならないのか」などの質問が出されました。厳しい財政状況の中、国会議員の定数削減や国家公務員の給与削減など、国としての対応も早急におこなうべきです。

12月臨時議会

シーボルトの湯 近くに新しい駐車場

12月26日に臨時議会が招集され、嬉野市営駐車場条例の一部改正と土地取得のための平成23年度一般会計補正予算が提出されました。慎重審議をおこない、全会一致で可決されました。



第二笹屋跡地

なぜ
12月26日に開催された第3回臨時議会において、駐車場など用地購入費と仮整備費として9004万円が予算化されました。

どこを、いくらで
「シーボルトの湯」開業以来、駐車場が遠いというのを、利用者や市民そして議会からも指摘を受けていたことを踏まえ、新しい駐車場用地を取得することとなりました。

「シーボルトの湯」に隣接した、第二笹屋跡地と花月跡地の2334平

今後は
今回取得する土地は、両方で約700坪と広いので、嬉野橋補修工事終了後は、駐車場とともに、将来は誘客につながるような利用の仕方、ということ視野にいれ整備を進めていくべきと考えます。

方メートルを8732万円で購入し、現在市が所有する「シーボルトの湯」第1・第2駐車場1543平方メートルを5772万2000円で売却し、その差額2960万円が市の持ち出し金となります。

勝負



答 平成25年度を目標

下水道の未整備地区実施年度は

山口 政人 議員

山口 下水道整備未整備地区（久間の一部・大草野・吉田・嬉野の一部）の事業開始は何年度になるのか。

市長 平成25年度目標に国、県と協議したい。

山口 早く未整備地区の皆さんの意向や、希望調査をすべきと思うが、地元説明会の時期はいつになるのか。

市長 地域での説明会は24年度末ごろになると思っている。

山口 未整備地区を一斉に事業実施するというのは不可能だと思うが、優先順位はどのようにして決定するのか。

市長 まだそこまでは検討していない、まず方式（公共下水道・農業集落排水・市設置型合併浄化槽）をどのような形で持っていくのか担当課で研究している。

山口 未整備地区について

では、現在の集合処理方式（公共下水道・農業集落排水）より低いコストと防災面から優れている市設置型合併浄化槽で実施したらどうか。

市長 整備コストや維持管理費を比較しながら決定していきたい。

行政嘱託員制度について

山口 行政嘱託員の再編は、どのようになっているのか。

市長 行政嘱託員制度については、1点目が現在の体制とする。

2点目は行政嘱託員会議年6回を4回にする。

3点目は報酬総額を5割以内で削減する。

4点目は行政嘱託員代表者会議を必要に応じて開催する。

5点目が平成24年度か



汚れている未整備地区の水路

ら実施するということでは了解いただいた。

平成24年度の

予算編成について

山口 本市の平成24年度の予算はどのような方針で臨まれるのか、また、ポイントは何か、予算規模はどのくらいか。

市長 予算編成方針を示し歳入については、市税

や施設の使用料などの的確な見直し、歳出については、新規行財政改革に伴う予算の見直しを指示している。

予算規模は、大型事業に着手するので平成23年度より若干多くなる。

真剣



人口増対策に全力投球せよ

平野 昭 義 議員

答 定住奨励金導入と企業誘致活動に努力する

平野 今年7月には結婚支援課が誕生し、晩婚化が進む今日、既に30人が登録されている。

また、地域に働く場所があることは、田畑や自然が守られ集落に活気が蘇ると考える。

市長の意欲をうかがう。

市長 企業誘致については、運輸関係からの問い合わせがあった、県と協議しながら進めていく。

また定住奨励金も要望が多く更に進めていく。

東日本大震災者への支援も努力してきたが、議員の提案もあるので、今後継続し実施していく。

国道498号線の

渋滞問題について

平野 久間地区南下久間の交差点は右折帯がなく、朝夕のラッシュ時間帯には樋口病院まで(約300m)渋滞する。

武雄方面に行く通勤車など大変困っておられる。地元の方も、迷惑を受け一日も早い渋滞解消を要望されている。

県の担当課に要望すべきと考えるが具体策をう

かがう。

新幹線建設課長

地元の方と一緒に調べて調査する。

平野 国道には水路が平行的に通っており、蓋の要望もあつていたが実現していない、学生など水路に転落している。

また、水路が確認できる防犯灯を設置されないか、併せて調査していただきたいが対応をうかがう。

市長 街路灯設置については、地元からの要望はまだないが、防犯協会など街路灯整備計画が有るかもわからないので確認する。



渋滞している南下久間の交差点附近

第3日曜日の家庭の日の取り組みについて

平野 県は第3日曜日を家庭の日と定めている。

今日最も危惧されている「社会教育」の問題について、9月議会で質問したが議論されているのか、また市独自で、家庭の日を活かし「社会教育」の強化に努力すべきでないか。

教育長 市単独では部活動などは休止し、家庭に返すことが望ましいと考えており、それには保護者や指導者の理解を取り付けなければならないと考えている。

空き家バンク制度を導入せよ

山下 芳郎 議員

答 導入に向けて研究する



山下 空き家を貸しているだけの数はわかるか。
市長 130軒ほどである。

山下 定住促進を活かすためにも、地域コミュニティと連動して嬉野市が窓口となり、空き家バンク制度を導入してはいいかがか。

また、耕作放棄地とセットで紹介できないか。
市長 不動産業者とも連携を取りながら運営でき

ればと思う。

庁舎統合の考えを問う

山下 今の分庁方式でも組織機構の簡素合理化はまだはかられていない。

これからの嬉野市の財政状況から抜本的な運営方法を取らないといけない大きな転機だと思う。維持費を抑えることで、市民の優先度の高い施策に充てられると思うがいかがか。

市長 現在の組織・人員配置で統合が課題になることはない。

統合となれば両庁舎とも収容力が不足するので庁舎の建設とともに検討すべきと考える。

副市長 両町の合併した趣旨を踏まえ運営しており、市民の理解は得ているものと思う。

山下 今の財政状況から

建設は考えられない。

合併当初の趣旨はわかるが、時代が大きく変わってゆく現実もあるもので、10年ごとに移転また

一階部だけを残す方法など柔軟に考えられないか。
市長 現状でコスト削減をはかって使っていくた

い。

社会文化体育館に

ついて

山下 基本設計ができた社会文化体育館の建設についてランニングコストが年間4050万円で要員が3〜4人と聞いているが、合併特例債とはいえ15億円を建設費にかけることが前提では大幅なコスト削減はできない。

財政状況に連動したコストを元に、建設を抜本的に見直す用意があるか。

市長 設計の段階でありコスト見直しは当然ある。維持管理のノウハウがあるので活かしていく。

その他の質問

・行財政改革大綱
・医療センターの移転計画について

健康保養地の整備を

梶原 睦也 議員

答 今後も幅広く展開する



梶原 温泉療養保険制度についての所見は。
市長 国には、一般の医

療保険の中に温泉療養を入れていただきたい。

梶原 医療費の増大とともに、予防に対する意識も高まっている。

温泉の活用については代替医療としての効果がすでに実証されている。

ぜひ、温泉の効能を活用した連泊型の湯治場の整備に取り組むべきと考えるがいかがか。

市長 旅館組合で湯治の宿の組織はできているので、連携できれば可能だ。

梶原 観光協会をはじめ、宿泊施設、立ち寄り湯、飲食店、商店街など現場と協力して嬉野市にあった制度をつくるべきだ。

10月に「シボルトの湯」を使って温泉入浴指導員の講習会がおこなわれた。

入浴指導員の増員とともに、嬉野温泉のPRにもなる。

今後も継続すべきだ。

市長 温泉の療養効果の向上とともに入浴指導員の必要性は高まる。

今後も継続したい。

梶原 「シボルトの湯」に関しては、特例債などの関係で利用制限がある

水路改修は県の責任で

神 近 勝 彦 議員

答 頑張ってみよう



神近 県道嬉野下宿塩田線の国道タッチ部分の工事が進んでいる。

かなり大きな水路が設置されているが、下流側は小さな自然石を積んだ水路で、以前にも、一気に水量が増えた場合は崩壊すると質問した。

県の責任で改修をおこなうよう要望したが、その後はどうなった。

市長 鹿島土木事務所と何度も話し合いをしたが、県は現状と大きな差は生じないとの見解であり、現状で処理できるのではないかとの答弁であった。現在、そこで止まっております、非常に残念に思っています。

再度、再三協議をお願いしていきたい。

神近 現在は、雨が降っても田んぼに溜まったり、山に浸透したりして、一気には水路に流れていかない。

しかし、県道ができることで、田んぼが無くなり、山が削られる。

雨が降れば、法面や道路に降った雨が直接水路に流れこむ。

宅地側の石垣が崩壊すれば建物にも影響がでる。下流側は区域外で県が



崩壊が心配される水路

直接できないのであれば、市のほうで工事をし、財

源は県で持つべきと思う。

市長 私も当然側溝を通じて水が増えるということとは解りそうなものと思つて説明するが、解らないと言われる。

何とか方向性だけは見つけるように頑張ってみよう。

年少扶養控除廃止に伴う財源利用は

神近 嬉野市で約6000万円

の住民税が来年度から増えるものと思うが、どのような形で使うのか

市長 全体的には財源が非常に不足しているが、福祉や子育て関係となるのではと思つている。

子どもの医療費補助はどうする

神近 次年度からは、就学前までの子どもの医療費助成を県がおこなうこととなったため、市の財政負担が約700万円軽くなった。

負担軽減分はどうする

市長 次のステップとして、中学生までの医療費助成を拡大したい。

観光商工課長 源泉の場所によって多少泉質が違つし、温度が高いので加水により成分が薄まることもある。

のはしかたないが、入浴客の中には、泉質についてがっかりしたとの声もあるがどう考える。

市長 嬉野温泉のシンボルでもあり、評価が下がれば嬉野温泉そのものの評価を下げることになる。改善できる点はしっかりと改善すべきだ。

市長 様々な意見は承っている。

従業員も一生懸命頑張つているので客が増える

るよう努力する。

梶原 「シーボルトの湯」を温泉療養の拠点に位置付けるべきで、温泉療養

による健康相談や、現状の施設でできる水中運動療法なども取り入れるべきだ。

市長 そのような企画も実施したい。

梶原 市長が考える健康保養地のイメージは。

市長 完全に医療と温泉の効能がドッキングした形での地域づくりができればいいと思う。

その他の質問 税の滞納対策について



「シーボルトの湯」での講習会状況

返還免除のUターン 奨学資金制度の創設を

副島 孝裕 議員

答 近隣の自治体への就職も含めて研究をしたい



副島 県内では最も内容の充実した定住奨励金制度や住環境の整備、子育て関連の保健福祉政策の

充実などが講じられているなかで、さらに人口減少が進行する要因として、どのような問題点が考えられるか。

市長 自然減の時代に入っており、少子高齢化の波が現実問題であり、交流人口の減少にともなう観光業などの従事者の減少も影響している。

副島 賃貸の集合住宅建設が民間で積極的に進められているが、新婚世帯や新規の転入者を対象にした家賃補助制度を新たに設けてはどうか。

市長 個人への家賃補助については、先進事例を参照にして研究したい。

副島 優秀な人材のUターンと人口減少の歯止め対策として、返還免除のUターン奨学資金制度を創設してはどうか。

市長 現在の奨学資金制度では課題があり、Uターンなどで帰ってくる若者への手助けを新しく考える方法として、調査研究をしていきたい。

公民館について

副島 機構改革にともな

土曜開校に取り組む考えはないか

田中 政司 議員

答 現段階では必要ないと考える



田中 佐賀新聞の9月15日付で「小・中学校の土曜開校を検討」という県教育委員会の記事が掲載

された。

その内容は「今春から移行した新学習指導要領で、学習内容が大幅に増え授業時間の確保が難しいこともあり、市町教委とも連携しながら小・中学校の土曜日の有効活用について、必要な支援や条件整備を進めていく」

となっている。

教育長の考えは。

教育長 2学期制を導入しており、新学習指導要領が完全実施されても、標準時数の確保はできている。

学力向上については、少人数授業やT・Tによる授業など個に応じた指導をおこなってきている。また体育大会や文化祭などの行事や授業参観なども日曜日に開催している。

そのような理由で、現段階では、土曜開校を積極的に進める必要はないと思っている。

田中 このことに関するアンケート調査を保護者に対しおこなうべきでないか。

教育長 2学期制の進捗状況が順調なので、現段階で土曜開校という形で

のアンケートまでは必要ないと考えている。

無線LANの設置を

無線LANの設置を

田中 スマートフォンなどの通信機器が快適に利用でき、また有事の際の通信手段の確保目的もあり、公共施設の待合室やロビーにおいて、インターネット回線を利用した無線LANの設置を進めている自治体が多くなっている。

市でも取り組む考えは。
市長 いろいろな制度を見つけないが、取り組みについては前向きに考えていきたい。

河川使用料（公有水面使用料）はどうする

市長 法定外公共物の使用料については、合併後調査・確認をおこなってきた、しかし本年度中には確認と承認が完全にはできない状況である。

来年度で確認と承認を完了し、再来年度には実施させていただきたい。



2学期制を取り入れている嬉野市内の小・中学校



嬉野にもどってきてほしい若者

い、社会教育課が教育総務課に統廃合され、事務の一部が教育委員会から企画部の職員に委任されたが、職務の遂行に支障はでていないか。

市長 それぞれの担当者が業務を引き継ぎ、課題は生じていない。

以前よりも頻繁に教育長との協議を重ねており、問題は起きていない。

るので、企画部との連携を小まめにおこない、大過なく進んでいる。

副島 公民館の管理・運営を地域コミュニティ協議会に委託できるか。

市長 自主的に業務を受託される要望があれば、その時点で法的問題を検証し、可能であれば取扱いをしたい。

副島 嬉野公民館の建て替えの計画はないか。

市長 利用者の利便性が非常に低いという意見もあり、公的施設の検討時期を踏まえて今後の課題としたい。

生きる力の教科書、指導書作成の進捗状況は

辻 浩一 議員

答 2月中旬にできあがる



辻 当初で予算化されたが進捗はどうなっている。
教育長 嬉野市副読本・

生きる力の教科書」という名前で、12月中旬に教科書が、来年2月中旬に指導書ができあがり、計画通り進んでいる。

辻 内容をうかがう。

教育長 3つのカテゴリーに分けてあり、

① 自分自身の心構えに関する事

② 他者と社会との関係に関する事

③ 自分を守る事に関する事。

などで、たとえば薬物乱用、携帯電話トラブル、感染症などである。

辻 指導方法はどうする。

教育長 1学年30項目1年で刃物所持、2年でシンナー、3年で大麻・覚せい剤など、年間計画で月に1回指導する時間を設定する。

辻 田舎から都会に出ていくと、誘惑が多くメディアの表現などで安易に考える傾向がある。

嬉野市でこの教科書で学んだことよって、犯罪を起さない、犯罪に巻き込まれないような教育をお願いしたい。

イノシシ捕獲対策の

市町村の連携は

市長 鹿島市、太良町との3地区で協議会をつくっている。

東彼杵とは県どうしでの協議会があり、また福岡県とも協議会がある。

白石町、武雄市とは個別の連携はないが、担当課が県レベルでの情報共有はしている。

辻 捕獲については猟友会にお願するわけだが、強要はできない。

餌代もかさむとの事なので、気持ちよく協力いただけるように、捕獲助

成金を増額できないかがうかがう。

市長 他の自治体と比較しても費用は組んでおり、提案としては承るが、協会と協議しながら、県にもお願いしていく。

辻 農作物や人にも危害の恐れがあるアライグマも捕獲助成金の対象にならないか。

市長 捕獲の方法がどういった形でできるかわからないが、駆除をするという意味からでも、いろんな形での助成が必要であれば考えていきたい。



副読本の内容の一部

施設整備に際し、地元の声を 取り入れていくか

山口 忠孝 議員

答 まず意見、要望をお聞きしている。



方々の声を取り入れていくのか。

市長 まずは地元の方に歓迎してもらおう必要がある。意見や要望をお聞きしている。

文化会館の見直しを

山口 「議員と語ろう会」で塩田地区の皆さんの意見をうかがって、社会資本の整備の遅れを痛感した。

山口 「湯けむり広場」の湯けむりは、期待したほど湯気がでていないようだが、仕組みはどうなっているのか。

観光商工課長 源泉を汲上げ循環させている。揚湯量が決まっているので循環させ、加熱してまた利用している。

山口 お湯に触れられたら、もう少し親しみが持てるのではないかと考えている。

市長 できることは今後検討したいが、安全面に配慮し、改造をおこなうにしても慎重にやっていきたい。

山口 こういふ施設の整備については、地元の

とで利便性が高まると承っている。

山口 体育館施設を充実させ一つの建物にまとめたら（文化施設と体育施設を）、将来的にも活用しやすいのではないかと考えている。

市長 体育館は体育館で、文化会館は文化会館でやっていくということ

になった。

山口 ランニングコストが年間4000万円程度見込まれているが、建物一つにすれば半分程度減らせるのではないかと考えている。

市長 ランニングコスト（維持費）は総工費の約3割程度と一般的な数字を出したが、工夫して軽減していけば負担にならないと考えている。

山口 これまでの経緯経過ばかりにとらわれず、これからの嬉野市としての将来を見据えてつくってもらいたい。



シンボルとしたい湯けむり広場

源泉の集中管理どうする

山口 要 議員

答 原則全員参加で努力する



の責任と、今後の実現に向けた展開をどうはかるか。

市長 この問題については重要であると認識している。今日まで努力してきたが、いまだ全面的な合意に到っていない。

山口 検討を始めてから早や16年が経過する。加えて合併特例債10億円の期限も追ってきているなかで、現状では実現不可能な気がしてならない。

ここで何らかの方向転換を考えてみてもよいのではないかと。

市長 甘いかもしれないが、原則全員参加ということに理解をいただくとともに努力していきたい。

「空き家条例」制定を

山口 空き家の適切な管理を所有者に義務付け、撤去規定なども盛り込んだ「空き家条例」制定の動きが広がっている。

本市でも制定に向けて取り組んではどうか。

市長 本市に空き家が208軒程度ある。地域の衛生面や防犯・

山口 市長の主要施策である「源泉集中管理」が遅々として進まない。このことに対する市長

税徴収率の県下最下位の要因は

西村 信夫 議員

答 固定資産税の滞納によるもの



西村 19年度以降の税徴収率、嬉野市は4年連続県下最下位で年々低下しており、主な要因と今後の対策をうかがう。

市長 嬉野市の滞納が県下自治体の中で目立っているのは、固定資産税の滞納である。

数件の大手事業所の滞納によるもので、引き続き法的な徴収努力をおこなう。

西村 嬉野市の差し押さえ件数をうかがう。

収納課長 平成23年度は

61件で額にして662万9000円、22年度は95件で760万2000円である。

雇用創出の基金事業について

西村 緊急的な雇用対策として国からの交付金を受け、平成21年度から24年3月まで緊急雇用創出事業、ふるさと雇用基金事業が実施されているが、全体的な評価を伺う。

市長 地域の活性化と雇用の確保として市役所全体で80名程度雇用し、3年間で雇用者220名程度になる。

西村 23年度ふるさと雇用基金事業で「学校生活総合支援」に雇用者16名4717万円の事業費で進められているが、ふるさと雇用基金事業は23年度で終了する。

今後の取り組みをうか

がう。

教育部長 単独事業としては難しいが、人員規模は少なくなっても事業は継続したい。

暗渠排水事業の

取り組みについて

西村 25年度から本格実施になるのか。

農林課長 来年度の事業採択後に25年度を目標として、26年度までの予定で事業費1億8000万円、希望者は202名、面積は130畝で計画している。

西村 事業内容と負担割合を具体的にうかがう。

農林課長 暗渠排水の給水管はポリ塩化コルゲートパイプ、その上をボラ土で囲み、その上に工作道を20センチ、ボラ土は40センチの深さになり、60センチのところをコルゲートパイプの布設をする計画である。

負担割合は国が5割、県が15割、市17・5割、地元17・5割で、10割あたり2万5000円程度になる。

防災面でも課題がでてきているので、先進地の情報を参照し検討していく。

「HTB 嬉野」

周遊バスの利用増へ

山口 ハウスステンボスと嬉野を結ぶ周遊バスが、

一台当たり2〜3名と利用が低迷している。利用増に向けて努力せよ。

市長 冬場から、嬉野の出發を夕方に変更し、夜のハウスステンボス観光を楽しんでもらうように計画し、増員に期待をしている。

またハウスステンボス内の特典については、先方

とも協議をしたい。

「市民幸福度」

の議論を

山口 「幸せ」が今、自治体の注目を集め、全国で20以上の自治体が住民の幸福度について議論を始めている。

本市でも「市民幸福度」調査導入に向けて研究しては。

市長 嬉野市が市民幸福度も高いことに期待をしながら、情報収集をしてみたい。



新たに設置された収納課



温泉は嬉野市の財産

東へ西へ

温泉を利用した観光商品を

大分県竹田市・熊本県南阿蘇村へ

産業建設常任委員会



竹田市より説明を聞く産業建設委員

嬉野市に於いて、観光客の減少は危機的状況であり、早急に対応しなければならぬ。そこで、積極的に観光対策（温泉療養保健制度）に取り組んでいる大分県竹田市を視察調査した。また、本市で取り組み可能な農産物の調査をするために阿蘇薬草園ハーブの里を視察した。

委員会の意見

竹田市・長期滞在型の温泉療養保健制度は予防医療による健康、癒しを目的とした新たな観光モデルを創出し、観光客の増大をはかるため市単独

で立ち上げられている。現在、実証実験中で制度について理解できていない部分もあるが、温泉療養保健制度の定着に向けて努力されている。

また、阿蘇エリアと一体化した観光コースや、新しい交通手段も取り入れられている。

嬉野市も癒し・健康・予防医療のための新観光商品を創出し、地域の特性を生かしながら事業モデルの策定をおこない、経済活性化につなげなくてはならないと考える。

阿蘇薬草の里ハーブ園では、あらゆる商品に薬効を唱って販売しており、消費者の健康志向に合致した販売方法は見習うところもあった。

防災行政無線の整備は慎重に

白石町・有田町へ

総務企画常任委員会

委員会の意見

両町とも「防災行政無線」を配備するにあたって、庁舎内において検討委員会を立ち上げられ、整備の概要、費用および財源など比較検討がおこなわれている。

整備の方向性を示すうえで大切なことであり、見習わなければならない。嬉野市では、合併特例債を利用し、個別受信機での整備方針と聞いているが、有田、白石の両町はコスト的に莫大な費用がかかるとの見解で屋外拡声子局を中心に整備されている。

いずれの方法をとるにしても、緊急時において住民への情報伝達が一番確実な「防災行政無線」を整備することが最も重要である。

庁舎内での検討後は、整備の方向性を住民や議会へ速やかに情報公開し、意見を集約しながら最終的な決定をするべきである。

現在、嬉野市において塩田地区は全戸、嬉野地区では消防関係者や区長宅、また一部地域に個別の「防災行政無線」が配備されている。今後、嬉野市として全戸配備の計画が進められているので、先進地の有田町と白石町での視察をおこなった。

議会は動く



館長と委員の意見交換

少子高齢化が進むなか、高齢者医療費の削減は不可欠であり、健康でより良い生活を営むためにも、健康増進事業の一環である温泉を利用した健康づくりとして、由布市直営の温泉施設「クアージュゆふいん」を視察した。

委員会においては、健康づくりとして水中運動が取り組まれている。水中運動は、腰から下が水中にあることが望ましいが、膝から下のみでのバタ足など工夫しただいでは通常の浴場でも可能であり、福祉課において

委員会の意見

水中運動で健康増進

大分県由布市へ

文教厚生常任委員会

は、11月末からでも「シーボルトの湯」を利用して火曜日から水曜日の午前中を貸し切って、水中運動事業を試験的に取り組みたいとの事である。

事業に取り込む職員の意欲が事業成功の秘訣であると感じたが、本市において「シーボルトの湯」を利用した健康増進や介護予防を進めるにあたり保健師の意欲に期待したい。

また、「シーボルトの湯」は嬉野温泉のシンボルであるが、利用者が少なく、経営は厳しい状況である。

由布市と同様に市民の健康増進に寄与する施設として利用すれば、今後の経営に大きく影響があると思えるので、福祉課の取り組みに期待する。



有田町の放送施設

嬉野市の活性化をめざして 山田桂一郎氏と意見交換

山田桂一郎氏は、「観光カリスマ」に登録されている方で、スイスの観光局やNPO法人などでの経験や、世界各地でのプログラム・ツアーの実施経験を活かし、日本の各地域において、講座・セミナーを開催され、自立できる組織づくりや地域性を活かした商品開発など地域観光のコンサルタントとして、各地域の観光振興に大きな役割を果たしておられる。

山田氏からは、他の地域の取り組み状況や問題点などが提起されました。他の地域の事例と嬉野市を比較することによって、本市の問題点が浮かび上がってきました。また、嬉野市を外部の目でみた印象などを聞くことによって、自分達とは考えさせられることが多いです。今後山田氏との意見交換が続き、嬉野市を活性化することができればと考えています。

嬉野温泉観光協会では、山田氏をアドバイザーにむかへ、旅館だけでなく飲食店や農業・歴史文化などを含め異業種の連携した新しいプロジェクトを進められています。

8月に1回目、10月に2回目、12月19日に3回目となる山田氏と議員との意見交換会を開催しま



▲12月19日におこなった意見交換

議員とかたろう会に 121人の方が参加

今年度2回目の「議員とかたろう会」を、11月21日～25日までの4日間、わたり、8地区において開催しました。

参加していただきました皆様には、多くの貴重なご意見をいただきありがとうございました。ご意見に対しましては、ご意見に整理したのち、行政へ要望事項や政策提言として提出したいと考えています。

行政側からの回答ができてきましたら、「議会だより」へ掲載して皆様にお知らせする予定です。

「議員とかたろう会」への出席者数

		男	女	小計
11月21日	畦川内公民館	11	1	12
	温泉区公民館	24	0	24
11月22日	冬野公民館	12	0	12
	今寺公民館	21	0	21
11月24日	中通公民館	8	0	8
	大野原コミュニティセンター	8	1	9
11月25日	山口公民館	14	2	16
	式浪公民館	18	1	19
計		116	5	121

交際費支出状況

(平成23年10月1日～11月30日)
(単位：円)

交際費の項目	件数	支出額
香典	0	0
供花	0	0
御祝	5	38,000
会費	2	15,000
その他	0	0
計	7	53,000

- ・御祝 公的性格を有する団体への支出
- ・会費 上部団体並びに公的性格を有する団体との協議会費等
- ・その他の内訳